

ゴールデンウィーク、いかがお過ごしですか。毎日がお休みだ、という人もいれば、いつも通り仕事だ、という人もいるでしょう。いずれにしても、神様が与えてくださった一度きりの人生、大切な人たちと、喜びや感謝を表す時を過ごせたら良いですね。

押し付けられた十字架

エルサレム旧市街地に「ヴィア・ドロローサ（悲しみの道）」があります。受難を示す 14 の「ステーション」があり、黙想しながら歩けるようになっています。

第 5 ステーションが、「キレネ人シモン十字架を負わされる」という、今朝の箇所です。キレネはエジプトの西の国です。彼は、1,800 キロ、出稼ぎか、聖地巡礼のために来たのでしょうか。決してイエスの十字架を押しつけられるために、ひと月かかる道のりをきたのではありません。旅の出会いが、人の心に深く刻まれるものです。シモンの目に焼き付けられたのは、傷ついた主の後ろ姿でした。先週の山上の変貌とは正反対の、よろめき倒れる寸前の、しかも十字架に向かう姿が、唯一目撃した、イエス様の姿です。

悲しみでしかない、その道が、シモンの人生を大きく変えました。彼の人生だけでなく、彼の妻や子供たちまで、聖書に名前を書き残される大きな励ましを受けました。使徒 13 章、ロマ 16 章のルフォスやシメオンは、彼らのことであると言われています。それは、受難の後に、復活と聖霊降臨を体験した彼らが、奇跡を証しする教会の一員になったことを示しています。はじめに十字架を背負わされた時、彼の戸惑いと、理不尽さに対する怒りは、想像に難くありません。しかし、その悲しみの道が、彼とその家族の人生を大きく変えたということに、私たちは大きな驚きを隠せません。この大きな励ましこそ、悲しみの道で私たちに告げられる約束なのです。

嘆き悲しみの道

道を進むと、第 8 ステーションが見えてきます。「主イエス、婦人たちを慰める」という場面です。しかしその慰めは、その場しのぎで口にする慰めとは、全く性質が違う悔い改めを迫る言葉です。ささやかな幸せなど、知らない方がよっぽどましだと思うほど、世界に大きな破滅がやってくると預言されたからです。その運命を嘆き悲しめ、と悲しみの道は私たちを諭します。

それが深い慰めなのは、その時にも主イエスは共におられる、という一筋の希望が伴っているからです。その救いのために、主イエスは十字架の道を進んでおられるからなのです。イエス様の言葉に、聞く耳を持つ人は幸いです。

ヴィア・ドロローサを、きっと今朝も多くの巡礼者がたどるでしょう。そして、最後の聖墳墓教会の天窓を見上げて、復活された主の姿を思い、感動を得ることでしょう。私たちが主の後ろ姿を、黙想しましょう。その先にこそ、復活の希望があるのです。